

# Digital Cinema NOW

190

## アバター 2 は映画興行を牽引できるのか

川上 一郎

米国で約 5,500 館が展開されている映画館で最高の売上を上げているのがマンハッタン中心部のブロードウェイ 42 番街に立地する AMC Empire 25 である。25 スクリーンで 4,024 席を設置しており、IMAX から Dolby Cinema @ AMC 等のスクリーン構成であり、マルチプレックス黎明期には 4,764 席の座席配置であったが、リクライニングシートの導入などの顧客満足度向上のためのリニューアルを行い、4,024 席の座席数となっている。

なお、周辺にはブロードウェイの名だたる劇場が立地し、24 時間運転の地下鉄駅がすぐ側にあることから、週末の深夜になってもインディーズ作品を上映するなどの立地条件に合わせた上映作品編成をおこなっていることでも知られている。

アバターの第 2 作は公称制作費が 350 ミリオンドル（1\$ : ¥135 換算では 472.5 億円）の経費を投じて、水中撮影用巨大プールをニュージーランドに建設し、水中での 3D 撮影に特化したカメラアリの開発などを行い、全編が実写による 3D 撮影（当然のことながら登場人物のモーションキャプチャ映像が 3D 撮影されている）で制作され、背景を含めた VFX 処理を行っている。なお、公開後のインタビューでジェームス・キャメロンは第 3 作の VFX 処理前映像 9 時間分をすでにディズニーに納品済みであると明言しており、現在第 6 作までの制作が予定されている。

さて、問題のなるのが作品の上映時間であり、3 時間 12 分の長編作品となることに加えて、3D 上映が主体であることから館内清掃に加えて 3D 眼鏡の回収・配布が必要なことから係員の配置を含めて 4 時間の上映間隔が必要となる。

従って、封切り初日に 47 回の上映を行った内訳は、IMAX3D が 4 回、Dolby 3D が 3 回、RealD 3D（レーザー光源）が 31 回、そして RealD 3D（レーザー光源）のスペイン語吹き替え、スペイン語字幕、中国語字幕（\*北京官語等と言われる Mandarin）が各 1 回上映され、2D 上映がキセノン光源映写機とレーザー光源映

写機で 2 回と 4 回行われている。

注目していただきたいのが、聴覚障害者向けの補助字幕表示装置での上映が大半の上映で行われていることである。聴覚障害の方々への映画体験機会提供と併せて観光立国を目指すのなら最新上映作品には必ず 5 カ国語での補助字幕表示装置に対応できるスクリーンを必ずシネコンに複数スクリーン提供する等の政策対案が必要であろう。

### ■封切第 1 週金曜日の上映タイムテーブル

12 月 16 日（金）合計 47 回上映

[4] IMAX 3D（レーザー投影）\*聴覚障害者向け字幕表示装置対応

10 : 00, 14 : 15, 18 : 30, 22 : 45

[3] Dolby 3D（Dolby Cinema @AMC）\*聴覚障害者向け字幕表示装置対応 12 : 00, 16 : 15, 20 : 30

[31] RealD 3D（レーザー投影）\*聴覚障害者向け字幕表示装置対応  
08 : 30, 09 : 00, 09 : 30, 10 : 30, 10 : 45, 11 : 15, 11 : 30, 13 : 00, 13 : 30, 13 : 45, 14 : 30, 15 : 15, 15 : 30, 15 : 45, 16 : 30, 17 : 00, 17 : 30, 18 : 00, 18 : 45, 19 : 15, 19 : 30, 20 : 00, 20 : 45, 21 : 00, 21 : 30, 22 : 00, 22 : 30, 23 : 00, 23 : 30, 24 : 00, 24 : 30

[1] RealD 3D（レーザー投影） スペイン語吹き替え  
21 : 15

[1] RealD 3D（レーザー投影） スペイン語字幕  
16 : 45

[1] RealD 3D（レーザー投影） 中国語（Mandarin : 北京官語）字幕 24 : 15

[2] 標準 2D 上映 Dolby Cinema @ AMC \*聴覚障害者向け字幕表示装置対応 08 : 00, 12 : 30

[4] 標準レーザー上映 \*聴覚障害者向け字幕表示装置対応

11:00、15:00、19:00、23:15

さて、封切り第2週金曜日の上映タイムテーブルではIMAX 3D上映の回数は4回と変わらず、Dolby 3D上映も3回と変わっていないが、RealD 3Dによる上映回数はわずか7回と大幅に減少している。その代わりとして、標準の2D上映回数は8回と増加させており、ブロードウェイの中心に立地しているAMC Empire25が全席座席指定でのチケット予約に切り替えていることから事前の予約状況に合わせて上映スケジュールを柔軟に対応させているとことがわかる。

興行第2週金曜日の上映タイムテーブル

12月23日(金) 合計24回上映

[4] IMAX 3D (レーザー投影) \*聴覚障害者向け字幕表示装置対応

10:00、14:15、18:30、22:45

[3] Dolby 3D (Dolby Cinema @AMC) \*聴覚障害者向け字幕表示装置対応

12:00、16:15、20:30

[7] RealD 3D (レーザー投影) \*聴覚障害者向け字幕表示装置対応

09:00、11:30、13:00、15:45、17:00、20:00、21:00

[1] RealD 3D (レーザー投影) 18:00

[1] 標準2D上映 Dolby Cinema @ AMC \*聴覚障害者向け字幕表示装置対応

08:00

[8] 標準レーザー上映 \*聴覚障害者向け字幕表示装置対応

09:30、11:00、13:45、15:00、19:00、19:30、22:00、23:15

さて、封切り第2週までの興行成績は米国・カナダが279ミリオンドルで、米国以外の興行売上は881ミリオンドルとなっている。8万スクリーンを展開している中国映画興行業界では、いわゆる“ゼロコロナ政策”の破綻から映画館の興業がコロナ以前に戻るのには全く不透明な状況であり、今月をはじめには5,000館の映画館は営業再開との報道もあったが、はたして全スクリーンで定員制限無く営業できているのには不明であり、8万スクリーンの9割以上が3D上映対応となっている中国映画興業市場の動向については配給元のディズニー関係者が頭を悩ましていると想像できる。

さて、日本では全国3,648スクリーンに対してウォルト・ディズニー・ジャパンは1,466スクリーンでの封切り上映を行った。ただし、上映時間が長いのも影響して興行売上第一位は人気バスケット漫画を映画化した“THE FIRST SLAM DUNK”が土日の2日間で5億4700万円をたたき出し、2位は“すずめの戸締まり”と続き、3位がアバターとなっている。

スラムダンクは累計販売部数1億7千万部を超える大ヒット漫画であり、バスケットボール人気を引き起こした作品であり、サツ



図1 Avatar第2作

カーブームの火付け役となった“キャプテン翼”とともにスポーツ物漫画の双壁であり、幅広い年代層に支持されていることから、劇場版スラムダンクが人気を呼ぶのは当然と言える。

このライバル作品の封切りに対抗するために1,466スクリーンでの封切りに踏み切ったものの中部地方の一部映画館では48fpsのハイフレームレート上映が行えずにチケット払い戻しを行ったトラブルも報道されている。

アバターで採用された48fpsの3D上映は激しい動きを伴うシーンでの立体視特有のガクガク感を低減させるためのハイフレームレート上映である。その意味では、レーザー光源のデジタルIMAXプロジェクターを2台設置しているフルスペックIMAXスクリーンでの鑑賞がお勧めと言える。

併せて、シネコンで最大の座席を設置しているPLFスクリーンには、ハイフレームレートに対応できる最新プロジェクターが導入され、かつ音響設備も更新されていることから、PLFスクリーンでロングラン上映されるかどうかアバターの興行的成功に関わってくる。

Ichiro Kawakami  
デジタル・ルック・ラボ